

取り組み区分	取り組みの成果	課 題	今後、必要となる視点・取り組み
A あつたの歩み (H18年度事業) ※ 地域振興基金 2,886,500円 (100%) 【事業目的】 市町村合併により閉村した「厚田村」の歴史を広く後世に語り伝えることを目的とする事業です	合併までの開基136年の歴史を記念誌としてまとめ、閉村した「厚田村」の歴史を広く後世に語り伝えることができた。 (区内全戸に配布 (H18.5 1,500部カラー印刷))	厚田に係りがあり、愛着をもっている人々からの購入希望があり、増刷等その具体的な対応を検討すべき	厚田を多くの人に伝え広めるためにも、販売に向けた具体的な協議検討を進める
B 体育振興事業 (H19～21年度事業) ※ 地域振興基金 125,000円/年 (50%) 【事業目的】 自治連合会と自治体育振興会が中心となりスポーツ・食をテーマとして事業展開することで厚田区民の健康維持増進と地域間・世代間の交流・親睦を図り、地域住民の一体感や連帯感を醸成し、自主的・主体的な活動への取り組みを図ることを目的とする事業です 【主な事業】 ① スポーツと食の体験 ② ミニバレー大会 ③ ウインターレクフェスタ	自治連合会と自治体育振興会が中心となり実施しているこの事業は今年で3年目を迎へ子供からお年寄りまで幅広い層の参加者により世代間の交流・親睦が図られている また、昨年この事業の中でJA加工グループが開発研究している「トマト」「かぼちゃ」ジャムの施策品が試食コーナーに出店され、多くの人達からの感想や意見を参考に試行錯誤をかさね、本年6月より製品化、販売にこぎつけたこと、さらには厚田産そば粉製品化のきっかけを導き出すなど、地域住民の自主的・主体的な取り組みへの気運を導き出すきっかけづくりとなり、事業目的が達成され、今後も新たな動きを導き出すものと期待している	現在地域振興事業として位置づけ、地域づくり基金(12万5千円/年)が活用されており、3年目の今年は基金を受ける最後の年となります 来年度からは市からの交付金はなくなり、事業予算は全額地域住民らの協賛金によりまかなわれることとなりますが、今後もさらに多くの人たちに協賛会員となっていたりするような魅力的な事業展開を続けることが課題となります	当初は区民を対象に事業展開を図って参りましたが、今年からは参加者の拡大を図る目的から区内外に積極的に参加を呼びかけ、厚田区における地域振興事業の取り組みを多くの市民に見ていただき・参加・理解していただくことで、地域自治区としての動きの一端を伝え、厚田をもっと知ってもらい今後もアピールしていきたい また、地域振興基金にたよることなく、次年度以降も継続してこの事業が実施できる体制の準備も進められております
C 厚田の森を支援する「やまどり」の会 (平成20年3月2日設立) 【会の目的】 厚田区の自然を愛する仲間が集い、森林施業などの各種体験を通して、森林に対する関心を高め、区内の環境保全、森林の歴史などを子孫へ伝えながら森林を守り・山づくりに寄与し森林・林業への認識を深めながら、山のすばらしさを多くの人たちと共有することを目的とする会です	初年度は厚田区の森林の状況把握のため、春・秋2回森林観察会を実施することで、多くの参加者と森林に対する関心を深め、山のすばらしさを共有することができました また、川を挟みキャンプ場と隣接する生活環境保全保安林の下草刈や往来のための流れ橋の設置、さらには市との協働による「あつたふるさと森づくり」ワークショップへの積極的な参加など、厚田の森づくりに対し提言してきました	現在会員数は70名を超え、設立初年度は厚田の山のすばらしさを知ること、会員間の交流・親睦を図ることを中心に事業展開を進めて参りました。 今後はさらに市との協働を意識しながら、区内における森林状況を把握するため、マップの作成など、長期的な事業計画・将来構想の確立を市との協働により創り上げることが必要と認識しており、市有林の保育・育成事業を始め、植林後の管理が行届かない箇所など、計画的な事業展開を図るべく計画立案が課題と考えます	当会と市が共通の認識に立ち、今後の森林に対する取り組みを協働で進めて行くためには市の森林に対するビジョンを確立することが重要であり、そのことが将来に渡り森林を守り育てる山づくりへと結びつくものと考えます また、当会との協働により区内の森林現状を把握し、長期的な事業計画・将来構想を創り上げるのが今後の取り組みにおいて必要と考えます

取り組み区分	取り組みの成果	課 題	今後、必要となる視点・取り組み
<p>D あつたライフサポートの会 (平成20年3月29日設立)</p> <p>【会の目的】 あつたライフサポートの会は、住み慣れた厚田の地で、いくつになっても、いつまでも安心して住み続けることができる地域づくりを目指す有償ボランティアの会です</p>	<p>本年4月から「移送事業」「除雪事業」をサポート活動の中心として取り組んでおります 移送事業では最寄りのバス停や老人クラブの会合場所まで自家用車にて、主に高齢者の送り迎え、除雪事業ではお年寄りの除雪が困難な場所のサポートを行っております 6月末現在の会員数は正会員(利用者)35人、賛助会員35人(内サポーター18人)の計70名となっており、2月の試行運転から6月末までの利用状況は88件の依頼を受け延べ152人のサポーターが373人の人々の移送サービスを実施してきました また、除雪事業については、今年度冬からのサポート実施に向け、現在活動の詳細等、準備を進めている状況です</p>	<p>有償ボランティアの会ですが、移送事業については、道路運送法上の問題から現在無償での活動となっており、有償ボランティアへの移行が課題であり、そのためには過疎地有償運送許可を取得することが必要で、過疎地有償運送許可申請を行うには、特定非営利活動法人の取得が条件となります 現在特定非営利活動法人の設立認証申請を北海道へ提出しており、特定非営利活動法人認証後は、過疎地有償運送許可申請手続きに向け、運営協議会を立ち上げ、会としての活動エリアを特定し、運営協議会の合意を得て、過疎地有償運送許可申請、取得することがさらなる課題です</p>	<p>過疎地有償運送許可取得には、この会が特定非営利活動法人となることが条件でありさらに、過疎地有償運送許可申請には、運営協議会の合意が必要となります。 今後、これらの取得・合意に向けタクシーや中央バスなどの事業者との合意が得られるよう、会の基本事項である既存事業者等のエリアを侵さない活動である事を認識・理解していただけるような準備が必要であり、これらの事業に対する取り組みの姿勢を打ち出しながら、地域の問題は地域でという「協働」の精神が厚田区住民の支えあう行動へとさらに進化する事を願い活動を展開してまいります</p>
<p>E あつた資料室リニューアル構想策定協議会 (平成21年2月25日設立)</p> <p>【会の目的】 本会は、厚田が輩出した著名人である子母澤寛、戸田城聖、吉葉山潤之輔、佐藤松太郎の四名を中心とした、厚田区の歴史にゆかりのある人物を広く紹介し、豊富な資料の有効活用を図り厚田区の歴史・文化に触れ親しんでもらうと共に厚田の存在を全道・全国にPRしながら、新たな地域づくり歴史・文化の伝承を図ることを目的とする会です</p>	<p>本年2月に立ち上がったこの会は、来年度の資料室リニューアル策定に向け、現在月2回のペースで構想策定作業に取り組んでいます また、本年8月石狩市民図書館にて開催予定している四代著名人のパネル展準備を当協議会と市との協働により進めているところでこれから目的を達成すべく成果が表れてくるものと確信しております</p>	<p>現時点では、協議会としての目的は達成されておりましたが、パネル展を実施し多くのニーズを把握する事で、リニューアル構想への策定作業に反映させることができ、これからの活動・取り組みが多いに期待されているところです しかし、現在の資料室である厚田公園管理棟の老朽化による外壁の落下や室内への水漏れなど、施設の問題がここに来て浮上し、今後の資料室の整備についての取り扱い・考え方・方向性を明確にすることが近々の課題となっております</p>	<p>建物の老朽化による課題はありますが、当協議会としてはこの結論には時間がかかるものと判断、将来的な歴史館をイメージした構想を計画どおり創り上げ、来年度現資料室のスペースを活用したリニューアルに取りかかることを基本的な考え方とし、構想の策定に取り組めます また、将来的な場所・建物はどこであれ、厚田区にしかない、独自の四代著名人に特化した資料室のリニューアル、その資料室でボランティア説明員として活動を進める事が、当会の目的でもあり、目的達成の第一歩と認識、今後の取り組みを図ってまいります</p>

取り組み区分	取り組みの成果	課 題	今後、必要となる視点・取り組み
<p>F「アテック」(厚田アグリビジネス研究会) 【Atsuta Agribusiness T&E Company】 (平成18年5月2日設立)</p> <p>【会の目的】 特産品の生産や販売、体験学習等を通じ食育活動をおこない厚田区の農産物の発展を目指すことにより、消費者に安全な農産物や加工品を提供するとともに、交流を通して地域の活力向上を図ることを目的とする会です</p>	<p>平成18年度から活動を開始したこの会は初年度、有機紫蘇を使用した飲料水を製造販売、平成20年度からは農産物出荷BOXお届便により、さらに活動の範囲を拡大し厚田区の新鮮な農産物を全道・全国に配信しながら、厚田をもっと知ってもらおうと取り組んできました。</p> <p>活動実績については、平成18年度から販売した紫蘇ジュースはH18 704本(500cc) H19 1,220本(500cc 278本・1,000cc 942本) H20 1,185本(1,000cc)、また平成20年度からスタートした農産物出荷BOXオーナーは、H20 121 H21 181オーナーと年々増加しており、農産物の流通を通して、多くの人たちに厚田を知ってもらい、生産者と地域に活力と元気を与えている</p>	<p>瓶や段ボール、発送経費が高騰しており、利益があまり上がらない状況にあり、今後コスト削減に向けた取り組み・工夫が課題となっています</p> <p>また、農産物出荷BOXオーナーは申し込みの半数がリピーターで占めていることから、口コミ等によるオーナー増が見込まれるため、現メンバーだけでの対応では厳しい状況で、今後の対応策を十分検討していかなければいけないと考えております</p>	<p>紫蘇ジュースについては打栓機購入により新たなサイズの販売が可能となり、販路拡大につながるものと確信しています</p> <p>さらに、発送者側の商品に対する想いをもっと明確にオーナー側へ伝えて行く事が、厚田の農産物の良さを知っていただける始まりであり、そこから新たな産業が生れるきっかけとなり、厳しい農業経営から新たな事業展開へと発展し、地域の活性化へと結びつくことを切望しています</p> <p>今後は研究をかさね、なぜこの商品をお届けさせていただいたかをわかりやすく伝える取り組みを進める一方で、厚田の農産物を使用した食品・加工品などの製品開発に向けた事業者からのオファーにより、新たな事業展開が導き出されることを期待している。</p> <p>このことは、新しい農業経営体系の確立を図ることでもあり、当会の大きな目標でもあります</p>